平成24年３月期　第２四半期決算短信［日本基準］（連結）

平成23年11月１日

上 場 会 社 名 アステラス製薬株式会社　　上 場 取 引 所 東証一部・大証一部
コ ー ド 番 号 4503　　U　R　L http://www.astellas.com/jp/
代　　表　　者（役職名）代表取締役社長　（氏名）畑中　好彦
問合せ先責任者（役職名）広報部長　（氏名）河村　真　　ＴＥＬ　(03)3244-3201

四半期報告書提出予定日　平成23年11月８日　　配当支払開始予定日　平成23年12月１日
四半期決算補足説明資料作成の有無：　有　・　無
四半期決算説明会開催の有無　　：　有　・　無　（証券アナリスト・機関投資家・報道機関向け）

（百万円未満切捨て）

１．平成24年３月期第２四半期の連結業績（平成23年４月１日～平成23年９月30日）

(1) 連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年３月期第２四半期	483,925	4.8	82,999	22.2	82,426	25.8	51,330	17.0
23年３月期第２四半期	461,729	△6.7	67,920	△47.5	65,499	△49.0	43,887	△47.4

（注）包括利益　24年３月期第２四半期　△11,079百万円（－%）　23年３月期第２四半期　△4,716百万円（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
24年３月期第２四半期	111　15	111　00
23年３月期第２四半期	95　03	94　93

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年３月期第２四半期	1,326,941	980,161	73.7
23年３月期	1,335,091	1,021,096	76.4

（参考）自己資本　24年３月期第２四半期　978,501百万円　23年３月期　1,019,574百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
23年３月期	－	60　00	－	65　00	125　00
24年３月期	－	60　00	―――	―――	―――
24年３月期（予想）	―――	―――	－	65　00	125　00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　有　・　無

３．平成24年３月期の連結業績予想（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円　銭
通　期	974,000	2.1	137,000	15.0	138,000	19.9	85,000	25.6	184　05

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　有　・　無

４．その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動：　有・[無]
（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　[有]・無

（注）詳細は、添付資料P.10「サマリー情報（その他）に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：　有・[無]
② ①以外の会計方針の変更　：　有・[無]
③ 会計上の見積りの変更　：　有・[無]
④ 修正再表示　：　有・[無]

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

24年３月期第２四半期	467,964,635株	23年３月期	467,964,635株

② 期末自己株式数

24年３月期第２四半期	6,125,872株	23年３月期	6,138,000株

③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年３月期第２四半期	461,833,370株	23年３月期第２四半期	461,824,334株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

上記の予想及び添付資料に含まれる将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績等は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。なお業績予想に関する事項は、添付資料P.９を参照ください。

（四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法）

四半期決算補足説明資料は四半期決算短信に添付しております。

また、平成23年11月２日（水）に証券アナリスト・機関投資家・報道機関向けに決算説明会を開催する予定です。その模様及び説明内容（音声）につきましては、当日使用する四半期決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… Ｐ．２
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… Ｐ．２
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… Ｐ．８
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… Ｐ．９
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… Ｐ．10
（１）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… Ｐ．10
３．四半期連結財務諸表 …… Ｐ．11
（１）四半期連結貸借対照表 …… Ｐ．11
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… Ｐ．13
四半期連結損益計算書…… Ｐ．13
四半期連結包括利益計算書…… Ｐ．14
（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書 …… Ｐ．15
（４）継続企業の前提に関する注記 …… Ｐ．16
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… Ｐ．16

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

①当期の概況

当第２四半期（２０１１年４月１日から９月３０日）の連結業績は、以下の通り売上高は増収、営業利益、経常利益、四半期純利益は増益となりました。

なお、当第２四半期の為替レートは、前年同期に比べ、米ドルに対しては９円の円高、ユーロに対しては同水準で推移しました。これらの結果、売上高においては１１４億円の減収、営業利益においては１２億円の減益の影響がありました。

［連結業績］　（単位：百万円、端数切捨て）

	前年第２四半期 (2011 年３月期)	**当第２四半期 (2012 年３月期)**	対前年同期増減額 (増減率)
売　上　高	４６１,７２９	**４８３,９２５**	２２,１９５ （４.８%）
営 業 利 益	６７,９２０	**８２,９９９**	１５,０７９ （２２.２%）
経 常 利 益	６５,４９９	**８２,４２６**	１６,９２７ （２５.８%）
四半期純利益	４３,８８７	**５１,３３０**	７,４４２ （１７.０%）

（注）包括利益　**当第２四半期**　**△11,079百万円（対前年同期増減率　－ % ）**

前年第２四半期　△4,716百万円

＜研究開発費＞

	前年第２四半期	**当第２四半期**
研究開発費	１０４,８００百万円	**９０,９４３百万円**

＜為替レート＞

	前年第２四半期	**当第２四半期**
円/米ドル	８９円	**８０円**
円/ユーロ	１１４円	**１１４円**

【売上高】

連結売上高は４，８３９億円（前年同期比４．８％増）となりました。

- グローバル製品である過活動膀胱治療剤**ベシケア**が引き続き伸長しました。免疫抑制剤**プログラフ**は、日本、欧州、アジアで伸長しましたが、米国での後発医薬品による影響により売上が減少しました。また、前立腺肥大症の排尿障害改善剤**ハルナール**の売上は減少しました。
- 国内市場においては、主力品並びに新製品の売上が順調に拡大しました。
- また、抗がん剤**タルセバ**などの売上が増収に寄与しました。

（地域別売上高の状況）

※地域別売上高については売上元会社の所在地を元に集計しています。

◇ 日本

日本の売上高は２，７０９億円（同３．７％増）となりました。このうち、国内市場での医療用医薬品の売上高は順調に拡大し、２，６１９億円（同４．１％増）となりました。

- **プログラフ**、**ベシケア**のほか、入眠剤**マイスリー**、非ステロイド性消炎・鎮痛剤**セレコックス**、統合失調症治療剤**セロクエル**などが伸長しました。持続性アンジオテンシンⅡ受容体拮抗剤**ミカルディス**は、利尿剤との配合剤である**ミコンビ**及びカルシウム拮抗剤との配合剤である**ミカムロ**と併せ売上を拡大しました。また、２０１０年１月に発売した成人気管支喘息治療剤**シムビコート**などの新製品が売上拡大に寄与しました。
- 一方、消化性潰瘍・胃炎治療剤**ガスター**、**ハルナール**などの売上が減少しました。

◇ 海外

米州の売上高は９４１億円（同６．２％増）となりました。なお、現地通貨ベースでの売上高は１，１７９百万ドル（同１８．４％増）となりました。

- **ベシケア**に加え、心機能検査補助剤**レキスキャン**が伸長しました。**プログラフ**は後発医薬品による影響を受け減収となりました。
- また、**タルセバ**の売上が増収に寄与しました。

欧州の売上高は１，００７億円（同６．３％増）となりました。なお、現地通貨ベースでの売上高は８８５百万ユーロ（同６．３％増）となりました。

- **ベシケア**の売上が伸長したほか、進行性前立腺がん治療剤**エリガード**、キャンディン系注射用抗真菌剤**マイカミン**が着実に売上を拡大しました。
- １日１回製剤**アドバグラフ**を含む**プログラフ**の売上高は、市場の成長と**アドバグラフ**の寄与もあり伸長しました。なお、**プログラフ**については、２００９年６月に欧州主要国で物質特許が満了し、複数の国で後発医薬品の発売が確認されています。
- **ハルナール**の自社販売による売上は減少しました。

アジアの売上高は１８１億円（同５．５％増）となりました。

- **プログラフ**、**ハルナール**のほか、**ベシケア**、**マイカミン**、アトピー性皮膚炎治療剤**プロトピック**などが拡大し、増収となりました。

【営業利益】

連結営業利益は８２９億円（同２２．２％増）となりました。

- 売上高の増加により、売上総利益は３，３５６億円（同３．９％増）となりました。なお、売上原価率は、製品構成の変化により、前年同期に比べ０．６ポイント上昇し３０．６％となりました。
- 販売費及び一般管理費合計は２，５２６億円（同１．０％減）となりました。
- このうち、研究開発費は、前年同期に比べ導入一時金が減少したことから９０９億円（同１３．２％減）となりました。対売上高研究開発費比率は、前年同期より３．９ポイント低下し１８．８％となりました。
- また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費は、各地域における営業力の強化に伴う経費が増加したことに加え、OSI 社の買収に伴う無形資産の減価償却費及びのれん償却費が３４億円増加したことなどから、１，６１７億円（同７．５％増）となりました。

【経常利益】

連結経常利益は８２４億円（同２５．８％増）となりました。

- 営業外収益は、前年同期と同水準の１６億円となりました。営業外費用は前年同期に比べ１８億円減少し、２２億円となりました。

【四半期純利益】

連結四半期純利益は５１３億円（同１７．０％増）となりました。

- 特別利益は、東京研究センター跡地の売却に伴い固定資産売却益１００億円を計上したことなどにより１３０億円となりました。
- 特別損失は９３億円となりました。減損損失４２億円を計上しました。当社の子会社であるプロシディオン社が保有する DPP-IV 阻害剤に関する知的財産及び付随するロイヤリティの譲渡に伴い計上したことなどによるものです。このほか、固定資産除売却損２０億円、東日本大震災による損失１７億円などを計上しました。
- また、２０１２年３月期第１四半期より海外グループ会社からの配当方針を変更したことに伴い、各グループ会社の留保利益に係わる繰延税金負債を計上したことから、当第２四半期は前年同期に比べ、実効税率が上昇しました。

②その他

＜研究開発及び製品導入等の状況＞

当社は、有効な薬剤が存在せず治療満足度の低い疾患領域で、革新的で有用な新薬を継続的かつ早期に創出することにより、中長期にわたる持続的な成長を目指しています。このため研究開発活動を最重点施策として積極的に推進しています。

◇創薬研究

「泌尿器」、「免疫疾患（移植を含む）及び感染症」、「がん」、「精神・神経疾患」、「糖尿病合併症及び代謝性疾患」を重点研究領域と位置づけ、経営資源の集中を図っています。
また、当社が強みを有する低分子合成技術や醗酵技術に加え、抗体、蛋白質に関する医薬技術の確立に向け積極的に取り組むなど、創薬技術基盤の強化を進めています。

・新薬創出力の一層の向上のため、オープンイノベーションへの取り組みを進めています。
２０１１年５月には、国内の大学・研究機関、企業の研究者とのパートナーシップを構築し、革新的で有用な新薬を創出するための創薬共同研究機会を提供する公募サイト「a3（エーキューブ）」を、当社ウェブサイト内に開設しました。

◇臨床開発

グローバル開発体制を一層強化するとともに、より優先度の高いプロジェクトに資源を集中することにより開発のスピードアップを図っています。当第２四半期における主な開発の進展状況は以下の通りです。

・日本では、**ベシケア**の追加剤形（口腔内崩壊錠）として開発していた**ベシケア OD 錠**に関し、「過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁」の効能・効果について、２０１０年１０月に承認を取得し、本年４月に発売しました。

・過活動膀胱治療剤**ミラベグロン**（YM178）に関し、「過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁」の効能・効果について、２０１１年７月に国内で承認を取得し、**ベタニス錠**として本年９月に発売しました。また欧米では、本年８月に欧州医薬品庁（EMA）及び米国食品医薬品局（FDA）に、それぞれ販売許可申請を提出しました。

・小野薬品工業株式会社と国内共同開発した４週に１回服用する骨粗鬆症治療剤**ボノテオ錠 50mg** に関し、２０１１年７月に国内で承認を取得し、本年９月に発売しました。

・**プログラフ**及びその１日１回製剤**グラセプター**に関し、２０１１年７月に「小腸移植における拒絶反応の抑制」の追加適応症について承認を取得しました。

・欧州では、抗生物質**ヴィバティブ**に関し、２０１１年９月に「MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）を起因とする、またはその関連が疑われる、院内肺炎と人工呼吸器関連肺炎」の適応症について、欧州委員会より販売承認を取得しました。

・２０１１年８月には、日本において、合成ペニシリン製剤**サワシリン**の小児感染症に対する最大投与量の変更に関する公知申請を行いました。本申請は、２０１１年６月の厚生労働省主催の「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」において公知申

請に該当すると評価されたことを受け行ったものです。当社は、未承認薬・適応外薬の解消に協力することで医療に貢献していきたいと考えています。

・なお、これまで下肢整形外科手術施行患者等における静脈血栓塞栓症予防、心房細動患者を対象とした脳梗塞予防、急性冠症候群患者を対象とした虚血性イベント予防を目標適応症としてグローバルでの開発を行ってきた経口直接的Factor Xa阻害剤**ダレキサバン**（YM150）について、本年９月に全世界における開発中止を決定しました。

当社はがん領域を重点疾患領域に位置づけ、早期の事業基盤確立に向けた取り組みを積極的に進めています。２００７年にがん領域の抗体医薬を専門とする米国バイオベンチャーであるアジェンシス社が当社グループに加わったことに続き、２０１０年６月には総合的ながん事業基盤を有するOSI社を買収しました。本買収により、当社のがん領域における製品ポートフォリオ及び開発パイプライン（新薬候補品群）は一層拡充しています。なお、当社は、２０１１年９月３０日現在、がん領域において１０以上の開発候補品を臨床段階に有しています。

・なお、２０１１年６月、抗体医薬の関連技術である抗体－薬物複合体（ADC）技術に関して、アジェンシス社と米国シアトルジェネティクス社の両社間で締結されたライセンス契約に基づき、シアトルジェネティクス社がアジェンシス社とAGS-22M6Eの共同開発を行うオプション権を行使しました。

当社は、自社での創薬と同時に、他社からの導入による開発パイプラインの拡充を積極的に行っています。

・２０１１年７月、米国バイカル社と、同社が創製、開発している移植時のサイトメガロウイルス血症予防ワクチンASP0113（VCL-CB01）について、全世界における開発・商業化に関する独占的ライセンス契約を締結しました。なお、米国についてはバイカル社が共同販促を行うオプション権を留保しています。

・２０１１年９月、株式会社イーベック社と、同社の感染症治療用完全ヒト抗体の一つについてライセンス契約を締結しました。本契約に基づき当社は、本抗体の全世界での開発、製造及び商業化の独占的実施権を取得しました。

◇その他の取り組み

・ファイザー株式会社と、日本においてファイザー社が製造販売承認を保有する持続性Ca拮抗薬／HMG-CoA還元酵素阻害剤**カデュエット配合錠**に関し、２０１１年７月に日本国内における共同販促契約を変更することに合意しました。本契約変更に伴い、ファイザー社が販売し売上を計上している本剤は、２０１１年１０月１日以降、当社が販売を担い、売上を計上します。なお、プロモーション活動については、引き続き両社共同で実施します。

・２０１１年８月、帝人ファーマ株式会社と新規痛風・高尿酸血症治療剤**フェブキソスタット**（TMX-67）について、東南アジア諸国（タイ、フィリピン、インドネシア、シンガポール、マレーシア、ベトナム）とインドにおける独占販売契約を締結しました。

なお、本剤については、台湾、中国、香港において、既に当社の子会社がそれぞれ独占販売権を取得しています。

・２０１１年５月、米国マキシジェン社との合弁会社であるパーシード社について、マキシジェン社が保有するパーシード社の全持分の買取を完了しました。これにより、当社は改変型蛋白製剤創製に有用な世界トップクラスの技術を保有することとなりました。

・２０１１年６月、当社の子会社であるプロシディオン社が保有する２型糖尿病治療に関する DPP-IV 阻害剤の知的財産及び付随するロイヤリティについて、Royalty Pharma 社と資産売買契約を締結し、7 月に同社に譲渡を完了しました。

・２０１１年７月、当社の米国子会社であるアステラス US LLC と米国メルク社は、心房細動を目標適応症として米国で承認申請中の注射用抗不整脈剤**バナカラント**（RSD1235）に関し、北米における共同開発、独占販売などの権利をメルク社の子会社へ譲渡する契約を締結しました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

＜貸借対照表＞

当第２四半期末（２０１１年９月３０日時点）における総資産は１兆３,２６９億円（前期末比８１億円減）となりました。現金及び預金が６３４億円、有価証券が４１６億円増加するなど、流動資産が８９６億円増加しました。一方、DPP-IV 阻害剤に関する知的財産及び付随するロイヤリティを譲渡したことなどから特許権が７３６億円減少したほか、のれんの償却などにより固定資産が９７７億円減少しました。

負債は３,４６７億円（同３２７億円増）となりました。未払金など、その他の流動負債が増加しました。

純資産は９,８０１億円（同４０９億円減）、自己資本比率は７３.７％となりました。四半期純利益５１３億円を計上した一方で、剰余金の配当３００億円を実施しました。また、為替換算調整勘定が純資産の減少方向に６１８億円変動しました。

＜キャッシュ・フロー計算書＞

営業活動によるキャッシュ・フローは８７３億円（前年同期比４５６億円増）となりました。税金等調整前四半期純利益が２４０億円増加しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは２７１億円の収入（前年同四半期は２,５９２億円の支出）となりました。無形固定資産の売却による収入４５５億円がありました。また、前年同四半期には OSI 社買収に伴う子会社株式の取得による支出２,９４７億円がありました。

財務活動によるキャッシュ・フローは△３０２億円（前年同期比６４億円の支出減）となりました。配当金の支払額３００億円を計上しました。

これらの結果、当第２四半期末の現金及び現金同等物の残高は２,４０３億円（前期末比６４９億円増）となりました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

［通期連結業績予想］　（単位：百万円、端数切捨て）

	２０１１年３月期 通期実績	**２０１２年３月期 通期予想**	増減額 （増減率）
売　上　高	９５３,９４７	**９７４,０００**	２０,０５２ （２.１%）
営 業 利 益	１１９,１８０	**１３７,０００**	１７,８１９ （１５.０%）
経 常 利 益	１１５,０５８	**１３８,０００**	２２,９４１ （１９.９%）
当期純利益	６７,６５０	**８５,０００**	１７,３４９ （２５.６%）

（注）**２０１２年３月期通期の想定為替レート：８０円／米ドル、１１２円／ユーロ**

２０１１年３月期通期の為替レート（実績）：８６円／米ドル、１１３円／ユーロ

通期連結業績予想は上表の通りです。

２０１１年５月に公表いたしました業績予想（以下、期初予想）から、売上高は据え置いています。また、営業利益、経常利益、当期純利益についてはそれぞれ上方修正しています。

為替レートにつきましては、第３四半期以降８０円／米ドル、１１０円／ユーロで推移すると想定した結果、通期想定為替レートとして８０円／米ドル、１１２円／ユーロとしています。

当期の連結売上高は9,７４０億円（期初予想を据え置き）を予想しています。

ベシケア、**プログラフ**及び国内医療用医薬品などの売上が期初予想を上回る見通しです。一方、**ハルナール**などの売上が期初予想を下回る見込みであるほか、DPP-IV 阻害剤に関する知的財産及び付随するロイヤリティの譲渡に伴う売上の減少を見込んでいます。

地域別では、日本及び欧州の売上が期初予想を上回る見通しです。一方、米州、アジアの売上は期初予想を下回る見通しです。

営業利益は1,３７０億円（期初予想から２０億円の上方修正）を予想しています。製品構成の変化により原価率が期初の想定から上昇する見込みですが、研究開発費を含む販売費及び一般管理費が期初の想定を下回る見通しです。なお、通期の研究開発費につきましては、経費の効率的使用の推進などにより、1,９３０億円（同６０億円の下方修正）を予想しています。

経常利益は1,３８０億円（同１５億円の上方修正）を予想しています。また、当期純利益は、東京研究センター跡地の売却に伴い固定資産売却益を計上したことなどにより、８５０億円（同４０億円の上方修正）を予想しています。

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第２四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	142,895	206,353
受取手形及び売掛金	262,512	261,820
有価証券	33,908	75,543
たな卸資産	116,881	108,686
その他	98,352	92,198
貸倒引当金	△1,395	△1,820
流動資産合計	653,154	742,782
固定資産		
有形固定資産	190,160	189,530
無形固定資産		
のれん	101,255	93,590
特許権	236,736	163,082
その他	29,186	25,958
無形固定資産合計	367,178	282,631
投資その他の資産		
投資有価証券	60,204	57,403
その他	64,438	54,613
貸倒引当金	△44	△19
投資その他の資産合計	124,598	111,997
固定資産合計	681,936	584,159
資産合計	1,335,091	1,326,941
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	88,601	94,206
未払法人税等	19,813	17,794
引当金	3,500	3,547
その他	127,732	160,433
流動負債合計	239,648	275,982
固定負債		
退職給付引当金	17,235	16,290
その他	57,110	54,507
固定負債合計	74,346	70,797
負債合計	313,994	346,779

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成23年９月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	103,000	103,000
資本剰余金	176,821	176,821
利益剰余金	874,351	895,640
自己株式	△23,492	△23,444
株主資本合計	1,130,682	1,152,019
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,479	8,871
為替換算調整勘定	△120,587	△182,389
その他の包括利益累計額合計	△111,107	△173,518
新株予約権	1,522	1,660
純資産合計	1,021,096	980,161
負債純資産合計	1,335,091	1,326,941

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
売上高	461,729	483,925
売上原価	138,590	148,227
売上総利益	323,139	335,698
販売費及び一般管理費	255,218	252,698
営業利益	67,920	82,999
営業外収益		
受取利息	622	669
受取配当金	642	596
持分法による投資利益	－	144
その他	409	247
営業外収益合計	1,674	1,658
営業外費用		
持分法による投資損失	170	－
為替差損	3,566	2,025
その他	358	205
営業外費用合計	4,095	2,231
経常利益	65,499	82,426
特別利益		
固定資産売却益	26	10,092
その他	94	2,972
特別利益合計	121	13,064
特別損失		
固定資産除売却損	557	2,004
減損損失	458	4,207
災害による損失	－	1,753
買収に伴う事業統合費用	1,696	728
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	559	－
その他	239	620
特別損失合計	3,512	9,315
税金等調整前四半期純利益	62,108	86,176
法人税等	18,221	34,845
少数株主損益調整前四半期純利益	43,887	51,330
四半期純利益	43,887	51,330

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	43,887	51,330
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,581	△607
為替換算調整勘定	△46,022	△61,802
その他の包括利益合計	△48,604	△62,410
四半期包括利益	△4,716	△11,079
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△4,716	△11,079
少数株主に係る四半期包括利益	―	―

（３）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	62,108	86,176
減価償却費	23,962	26,934
減損損失	458	4,207
のれん償却額	5,051	5,912
受取利息及び受取配当金	△1,265	△1,266
固定資産除売却損益（△は益）	531	△8,087
売上債権の増減額（△は増加）	△21,444	△7,789
たな卸資産の増減額（△は増加）	△13,282	△605
仕入債務の増減額（△は減少）	13,158	8,771
その他	△3,655	△3,527
小計	65,622	110,725
利息及び配当金の受取額	1,259	1,206
利息の支払額	△207	－
法人税等の支払額	△24,984	△24,590
営業活動によるキャッシュ・フロー	41,691	87,340
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△2,714	－
有価証券の売却による収入	81,193	55
有形固定資産の取得による支出	△19,040	△24,929
有形固定資産の売却による収入	115	11,572
無形固定資産の取得による支出	△5,146	△2,401
無形固定資産の売却による収入	－	45,575
投資有価証券の取得による支出	△119	△397
投資有価証券の売却による収入	3,116	2,749
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△294,703	△3,771
その他	△21,933	△1,312
投資活動によるキャッシュ・フロー	△259,233	27,141
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（△は減少）	30,000	－
社債の償還による支出	△36,285	－
自己株式の取得による支出	△8	△6
配当金の支払額	△30,018	△30,018
その他	△314	△196
財務活動によるキャッシュ・フロー	△36,627	△30,221
現金及び現金同等物に係る換算差額	△20,042	△19,356
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△274,212	64,904
現金及び現金同等物の期首残高	431,920	175,465
現金及び現金同等物の四半期末残高	157,707	240,370

（４）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。